

第18回評価分科会 議事録

1 日 時 令和7年9月1日（月）15:00～15:56

2 場 所 総務省第二庁舎7階中会議室及びWeb会議

3 出席者

【委員】

菅 幹雄（分科会長）、富田 敬子（分科会長代理）、會田 雅人

【臨時委員】

神林 龍、小西 葉子、山本 渉

【専門委員】

土屋 隆裕、原 ひろみ、元山 斉

【事務局（総務省）】

統計委員会担当室：谷本室長、赤谷次長、松井政策企画調査官、福田補佐

4 議 事

国際機関へのデータ提供について

○菅分科会長 それでは、ただ今から第18回評価分科会を開催させていただきます。お集まりの皆様におかれましては、お忙しい中、御出席いただき、ありがとうございます。

本日は、「国際機関へのデータ提供について」の審議を行います。

配布資料の確認は省略いたしまして、早速審議に入ります。

前回の評価分科会では、国際機関へのデータ提供に関する課題について、事務局に整理していただいた内容を基に御審議をいただきました。その審議内容を踏まえまして、事務局においてさらなる国際貢献に向けた方向性についての分科会取りまとめ案をたたき台として作成していただきましたので、御説明をお願いいたします。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 事務局でございます。資料につきましては、「国際機関等へのデータ提供を通じたさらなる国際貢献に向けて（事務局案）」ということで、評価分科会長とも相談し、案を作成しているものでございます。

これまでの評価分科会におきまして、データ提供の状況について把握させていただきまして、ヒアリングなども行いました。関係各府省の皆様におかれましては、厚く御礼申し上げます。

その内容についてまとめたものでございまして、まず、1番として、現状、国際機関へのデータ提供、どうなっているかという調査の結果を端的に述べているというところでございます。基本的には、本文にありますとおり、依頼の8割以上が提供されるなど、幅広

い国際機関へのデータ提供を通じて、我が国における国際貢献が図られてきたというところでございます。そこについて高く評価されるべきであり、今後も周知・説明等、円滑な実施に活用できるものと考えられるというふうにしております。

実際のデータ提供状況のまとめにつきましては、次の別紙というところで、第16回と第17回の評価分科会の資料より作成したものがございます。先ほど8割という数字を述べましたが、令和4年度についてまとめてみますと、180件の依頼があったものについて、143件に対して全部またはおおむね提供を行っているというものでございます。

実際のデータ提供の依頼というところにつきましては、A3の一枚紙のところで、どんな機関からどんな提供の依頼があって、その結果どのように対応しているかというところがありますので、また追って御覧いただければと思います。

データ提供が一部できていない、全くできていない37件のうち、国際機関のデータベース等へのデータ登録を確認できた24件についてまとめてみたところ、そのほかの国と比べまして、日本を含む3か国以下が未登録であるものが9件ということで、極めて少ないものというふうになっております。

その中でも、データ提供ができていないものについて、例えば、一部だけでも提供ができるのではないかとというようにヒアリングでも確認したところ、ここに挙げておりますとおり、別紙2の(1)のところ、バイオテクノロジーへの研究開発投資額のデータであったり、学歴別人口のデータであったり、このようなところで改善が図れたものもあります。

また、データ提供の依頼に対応できなかったものについて、その内容を確認したところ、確かに、例えば、農業由来のアンモニアについては、我が国については把握するまでもなく十分低減されていて、国内でもそのようなものを把握するニーズに乏しいとか、そもそもほかの諸外国との制度の違いによって、ここに書いてある私的年金に関する話であるとか、そうした仕組みの違いによって、そもそもそのデータを把握するためのスキームをつくることができないとか、そのような極めて合理的な内容でデータ提供ができていないということが明らかになったところでもあります。

資料本文に戻りまして、そうしたものを踏まえて、2のさらなる国際貢献に向けた取組の方向性ということで記載をしております。

まず、(1)番として、効率的なデータ提供に向けた関係機関との調整でございます。今、説明をいたしましたとおり、我が国において合理的にデータ提供について不可能であるという、そのような場合もございますし、国際機関の側についても、ある意味、やみくもにデータの提供依頼を行っている事例もあります。そして、我が国の窓口のところについても、各国際機関によって、様々な窓口を通じてまちまちに依頼をしてくるというようなことも考えられるところがございます。

そうしたところについては、我が国からも、しっかりと国際機関に対して、その利用目的等を十分に確認することが必要であるということ、そして、国内の複数の機関にばらばらにデータ提供の依頼があるといったこともありますので、そうしたときには府省間の情報共有の枠組みを活用するということで、こちらは具体的には国際統計に関するワーキン

ググループという既存の取組などありますので、そうしたところで情報共有を行うということを記載しているものでございます。

また、国際的なニーズのある統計の整備に向けた検討というところで、(2) 番に書かせていただいておりますけれども、公的統計、統計法に基づく社会の重要な情報基盤であるということがありまして、こうしたところは情報基盤のベースとして、我が国のみならず、国際社会を含めた社会の情報基盤ということを考慮して、以下の観点からデータ提供の可能性を検討するというように記載をしております。

まず、1 つが、国際協調の観点からニーズが認められる統計ということ、そして、もう一つが、国際的な集計の区分または分類に合致した統計ということで、ニーズ、適合性と比較可能性、こうしたところで何か貢献できるところはないかを考えましょうということでございます。

最後に、人材育成ということで、そうした我が国のニーズのみならず、国際的にはどんなデータが求められているのかということ把握した上で、我が国においてはどんな統計調査を実施するべきか、このような広い観点を持つ人材というのが必要であろうということで、そうしたものについても今後とも引き続き取り組むということで書いているところでございます。

簡単であります、取りまとめの案として御紹介させていただきました。

○菅分科会長 ありがとうございます。

それでは、ただ今の御説明内容につきまして、御質問、御意見を賜りたいと思います

○會田委員 事務局の方で前回、前々回で出た意見を細かく整理してもらって、ありがたいと思います。まとめ方としては妥当だと思いますので、私はこれでよろしいのではないかと思います。

○菅分科会長 ありがとうございます。それでは、次に富田委員、大丈夫ですか。入れますでしょうか。

○富田部会長代理 最初にお断りしておきます。申し訳ございません。今私がいる環境が非常に回線が不安定なものですから、まず、申し上げたいことだけを先に述べさせていただきます。

まず、丁寧にお取りまとめいただきまして、ありがとうございます。今回、私が1 点だけ確認させていただき……。

(音声途絶)

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 参加者の皆様、今、ちょっと富田委員にはチャットで状況を確認しておりますので、少々お待ちください。

○菅分科会長 富田委員の回線がつながりましたら、改めて入っていただくという形にさせていただけたらと思います。

○神林臨時委員 膨大な事務作業をありがとうございました。

1 点コメントと、1 点質問がございます。コメントは、各文章の主語がはっきりしないなという点です。大方は関係府省というのが主語に当たると思うのですが、一部、統計委

員会もその主語の中に入るのかどうかをはっきりさせておいた方がよいと思います。

具体的には、1番、国際機関等へのデータ提供を通じた国際貢献の現状のところ、ここは関係府省が主語になっていると思うのですが、次のさらなる国際貢献に向けた取組の方向の(1)は、恐らくこれは関係府省で、(2)の統計の整備に向けた検討のところは、一部、統計委員会の職掌にも係るのかと思います。(3)の人材育成についても、これは統計委員会の職掌も少し係るのかなと思います。主語ははっきりさせた方がよいというのが、1点目のコメントです。

質問は、(3)のところの2行目、「公的統計及びその政策における利活用も含めた」というときの「その」というのが、指示代名詞が入っているのですけれど、この「その」というのがどこを指すのかというのがちょっと分からなかったということです。恐らく要らないのですかね。「政策における利活用も含めた」と言ってしまう方がいいのではないかと思います、この点、質問です。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 1点目のコメントについては、また調整させて、確認させていただければと思います。

もう1点の質問につきましては、「公的統計及びその政策における利活用」ということで、公的統計を利活用した様々な政策立案においてということなので、この「その」が、「公的統計の」で、本当は利活用にかかるのですが、政策における利活用というところになるというわけですが、確かになくても伝わるかなというふうに思いますので、ここはちょっと削除する方向で調整はしたいと思います。ありがとうございます。

○神林臨時委員 ありがとうございます。

○菅分科会長 要するに、1番目はこれから検討するということですか。これは少し微妙なのですよね、多分。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 そうですね。

○福田総務省統計委員会担当室長補佐 室長補佐の福田ですが、主語の関係で言いますと、まず一番上の「考え方をとりまとめる」の主語は評価分科会でございます。

その次に、1、国際機関等へのデータ提供を通じた国際貢献の現状というところについては、例えば、みんな語尾が「図られてきた」とか「活用できるものと考えられる」と書いてありますが、ここの主語は評価分科会であります。評価分科会として、このような国際貢献が図られてきたとか、活用できるものと考えているというのが1でございます。

2のさらなる国際貢献に向けた取組の方向性については、まず、冒頭の2行については、「以下の方向性で取り組むよう努めることが望ましい」と言っている主語が、評価分科会になります。

それ以下の(1)(2)(3)については、評価分科会が望ましいと思っている各府省の活動について書いているので、例えば、(1)の最後の行、「府省間の情報共有の枠組を活用する」であれば、「活用する」の主語は各府省ということになります。

それで、(2)につきましては、下の2つのボツの上の「提供の可能性を検討する」というところにつきましては、これも各府省が可能性を検討するということになります。

続きまして、(3) ですが、最後の行、「引き続き取り組む」ということについても、これも各府省ということになります。

このように、一応、1 は評価ということで、分科会が評価するので分科会が主語、2 は、望ましいというふうに提言をするという部分の上の2行の主語は評価分科会で、(1)(2)

(3) の中の方は各府省の取組ですので、主語は各府省ということにおおよそなるかと思っています。

○**神林臨時委員** 統計委員会が何か審査をするときに、例えば、(2) の国際的なニーズのある統計の整備に関して、今後の統計の企画または見直しに当たりというところで、統計委員会が可能性を検討するということは提言しなくてよいということなのですか。

○**菅分科会長** いかがでしょうか。大丈夫ですか。

○**福田総務省統計委員会担当室室長補佐** このところは、確かにこの文章としては、可能性を検討することについて各府省がそういうことをした方がいいという提案をしているということですので、おっしゃるとおり、この文章の中には、統計委員会は、例えばいろいろな統計の審査とかがありますけれど、変更の審査のときに、どういう観点で今回の統計を変えているのかとか、そういう審査をする際に、この観点で審査しますということではないです。

ですから、あくまでこの文章的なものとしては、各府省の取組を勧めている、こういうふうにしてほしいという提案をしているという形になっています。

○**菅分科会長** この話、非常に複雑でして、ここでおっしゃられたように、主語を統計委員会にしまうと、統計委員会の本委員会で審議しなければいけないのですね。

○**神林臨時委員** はい。そうです。

○**菅分科会長** 評価分科会で審議した内容は、上に上げないのですね。要するに、部会ではないので。そうすると、主語は評価分科会になってしまうのですね。つまり、統計委員会と書いた瞬間に、統計委員会に諮っていないでしょうという話になってしまうのですね。評価分科会に諮って、評価分科会がそう言っているという話になってしまう。そういう形になっています。

これは、設立の経緯とか、いろいろあるのだそうですけれども、少なくともここで議論した内容を統計委員会に報告しないのですね、そもそも。そういう仕組みになっているようで、それで主語を入れるとすると、評価分科会あるいは関係府省という形になる。そういうことになると思います。

○**神林臨時委員** 分かりました。

○**菅分科会長** ちょっと非常に分かりづらいですね。だから、統計委員会と書いてしまうと、とにかく越権行為になってしまうので、それはさすがに書けないというか、明示はできないという形になりますね。

○**神林臨時委員** でしたら、2 のところで「現時点で提供できていない」と書いてあって、「国際貢献の観点から、各府省は以下の方向で取組を努めることが望ましい」と明示をしてしまった方がよいと思います。

○菅分科会長 そうですね。事務局で今の御提案を反映させる形で御検討いただけますか。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 承知いたしました。

○神林臨時委員 よろしく申し上げます。

○菅分科会長 どうもありがとうございます。鋭い御指摘で、ありがとうございます。

○小西臨時委員 取りまとめ、ありがとうございました。私も異議はありません。ここまで来たら、資料が独り歩きできるように、見やすくなる工夫をする段階だと思います。

2 ページで、「全部提供」又は「概ね提供」が 143 件で、「一部のみ提供」等が 27 件で、10 件が提供困難で、3 か国以下が下記米印の 11 か国となっています。これが後ろに続く表を見たときに、すぐには分かりにくいかなと思います。

例えば、5 ページで、データ未登録の国と書いていて、OECD加盟国数かつG20と書いていますけど、その字が小さいかなと思います。細かいことですが、見る人がすぐに分かるように工夫していただければと思います。例えば、何か国中の3か国以内でということが分かるようにするとか、あとは、4か国以上で出していないというのはこの中に入っていないのかとか、そのような細かいことが、この説明がなくても、表だけで何なのかが分かるというのにしていくと、良いかなと思います。

この①から⑨というのが何なのかというのも、例えば、2 ページ目とかを見ていただいたら、未登録であるものの9件なのですね。それと、全く提供困難なもの10件というのが、その間に表があるのですが、件数も似ているし、数え方が違うのか、同じなのかとか、何かそういうことまでも細かくきれいになっていくと、また一段二段と、皆さんの作業の価値が高まるのではないかなと思います。

4 ページで数えている件数と、5 ページの番号とか、あと、細かく行ができているものの数の関係が一致しているのか、それとも、どうカウントしたら一緒になるのかとか、そういうこととかまでも情報として入っていけば、より一部だけ見ても理解できるような、いい資料に育っていくのではないかなと思います。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 我々のところでも、何かその関係性が分かるように、もう1回確認をしておきたいと思います。しっかりと提供できているというふうな実績を的確に示すことは重要だと考えておりますので、そのようなところを今の御助言に沿って確認してまいりたいと思います。

○小西臨時委員 きれいに、わかりやすく整理していただいて、注記なども追加いただいて、完成に向けていただけたらいいと思います。

○菅分科会長 これは、資料にグラフとか入れてはいけないとか、そういうルールがあるのですか。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 特段ないです。

○菅分科会長 今の御提案だと、グラフのようなものを入れた方がいいかもしれないですね。ちょっと分かりづらいということですので。それと、要するに、別表との関係がよく分からないということなので、グラフを入れるなり、これはこれに対応するというのを注記で入れるとか、あと、ちょっと字が小さいという御指摘もありましたので、それについ

て御配慮いただけたらと思います。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 承知しました。

○山本臨時委員 ただ今の小西委員の御指摘を拝聴しながら、私も思ったのですが、別添2の5ページの表で、国際機関におけるデータ公表場所という列がございまして、データベース等の名称、データセット又はテーブル名、データ系列名とありまして、データ系列名の左の縦線は要らないのではないかと思います。

例えば、①のところで、International Labor Migration Statistics とあって、Statistics on migrant workers はいいのですが、その下の縦棒はない方が、段になっているというのが目についていいのではないかと思いますので、御検討いただければと思います。

私の方からは1点でございまして、方針や取りまとめ内容については異存ございません。

1つだけお伺いしたいのは、第2項でございます。さらなる国際貢献に向けた取組の方向性とございまして、(1)(2)は特にそうだろうと思うのですが、(3)もそうなのです。国際貢献に向けた取組ということで、(3)に適切なデータ提供のための統計人材育成とあります。「国際社会からのニーズに対応した適切なデータを提供できるよう」ということでは、統計人材もそうなのですが、「国際的な素養を持った」のような少し文言を加えていただいてもよいのではないかと思います。

別のお仕事で国際的な取組をしている部局の方々にお話を伺う機会がありまして、例えば、ISI等々、国際会議で発表されたり、報告されたりというような経験をさせている部局もあるように思いましたので、「国際性を持った」という文言を「統計人材」の前に入れることを御検討いただければと思います。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 ありがとうございます。確かに、資料の説明で申し上げたとおり、そもそも統計に対してどんなニーズが求められているのか、ニーズとか、それに関するバックグラウンドというところが分かる人が求められているのだというところは説明したとおりでございます。

ですから、「その」をさっき削除すると言っていた、「公的統計及び政策における利活用を含めた幅広い知識」のところで、何かしら国際的な素養というところが読めるような文言が入っているとよいということですかね。

○山本臨時委員 2項の(3)の方で「その」のあたりなのですが、例えば、英語というと、何かちょっと具体的過ぎるなと思ひまして、国際会議というとか義務的なので、そうではなくて、単に統計知識とともに国際的な素養ものような表現だといいかと思います。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 「政策における利活用や国際的な素養も含めた幅広い知識を有する」と。

○山本臨時委員 そうですね。もしくは、「幅広い知識を有し、国際的な素養を持つ」でもいいかと思います。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 ありがとうございます。では、そのような形で修正を考えたいと思います。

○菅分科会長 今少し思ったのですが、人脈とか、それに近い話かもしれませんね。人脈だと、ちょっと露骨過ぎますかね。要するに、国際的な会議にきちんと出て、意見交換ができて、情報も、人脈は、あまりこの類いの文書には使わないですね。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 そうですね、素養のような表現が入るのではないかと。

○菅分科会長 言わんとしているところは、要するに人脈なのですね。そういうところに出て行って、ちゃんと意見交換ができて、情報が取れるということなのかもしれませんが、了解です。

○土屋専門委員 まとめの全体の方向性に関しましては、私も全く異存ございません。

1点ちょっと細かい点なのですが、資料の1ページ目のタイトルの下の1行目に「評価を行った」という表現がございますけれども、ここについては、評価となりますと、望ましいとか、いま一つだとかいうのが評価だと思うのですが、この段階では、実績について取りまとめたというような事実についてまでにしておいて、その上で、1の今現状を取りまとめた結果、8割以上が提供されていて、それについては高く評価されるべきだと。この段階で初めて評価という言葉が出てきた方がいいのかなというふうに思いますので、1行目の最後の「評価」というところは、別の表現にされた方がいいのではないかなというふうに思いました。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 令和4年度の状況について……。

○菅分科会長 事実確認を行ったと。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 事実確認か、確認か、どちらでもいいですかね。最初の1行目のところの「評価」を「確認」とか、そのような、単語に置き換えるということとでよろしいでしょうか。

○土屋専門委員 そうですね。状況や現状をきちんと把握したというところの表現までにとどめた方がよいのではないかと思います。

○菅分科会長 「令和4年度の状況について、現状を確認した」と。

○土屋専門委員 「状況について実績を取りまとめた」ですと、また2行目、2つ目の文章の最後とかぶってしまいますが。

○菅分科会長 「状況について整理した」と。

○神林臨時委員 ちょっとすみません。

○菅分科会長 よろしく願いいたします。

○神林臨時委員 横から口を出して申し訳ございません。ただ、この文章の構成は、私たちは評価をして、その評価を受けて改善点を述べるというような形になっていると思いますので、評価という語を一段間に挟んでおく。1と2の間に挟んでおく必要はあるのではないかと思います。

事実確認をして、それを評価して、次のステップはこうですというふうに提言をまとめるという形で、PDCAサイクルのような形になっていますので、事実確認から直接こういうふうにするべきですという提言には多分行かない方がよいと自分は思いますので、原

案のままでよいのかなと思いますけれども。

○菅分科会長　そうですね。「我が国から国際機関等へのデータ提供に関し、令和４年度の状態について、現状を確認の上、評価を行った」。

○神林臨時委員　「その評価の結果に基づき」ですね。

○菅分科会長　「評価に基づいて」ですね。結果ではなくて、評価の結果。

○神林臨時委員　「評価に基づく」というのがロジックだと思いますので。

○菅分科会長　そうすると、「我が国から国際機関等へのデータ提供に関し、令和４年度の状態について、現状評価を行った。その評価に基づき」。

○神林臨時委員　「現状を把握し、評価した」。

○菅分科会長　「評価した」ですね。「現状を把握し」。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　今までの状況についてというのがあるので、「現状」は特に要らないということですね。

○菅分科会長　「状況を把握し、評価を行った」と。

○神林臨時委員　ただ、現状を把握して評価をしたというのが１のところ、１段落目２段落目を通じて書かれていると思うのですが、評価に基づいて、更に今やったことを以下のとおりまとめるという。また同じことが繰り返されるような私は気がいたしました。

○土屋専門委員　ですので、評価をするということは、１の２段落目で初めて出てくる方が望ましいかなという。流れといたしましては。

○神林臨時委員　お任せします。

○菅分科会長　この最初の３行は要るのかというところもちよっとあって、「我が国から国際機関等へのデータ提供に関して、以下のとおり取りまとめた」でいいのではないかと。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　つまり、令和４年度の状態について、要は、評価及びその結果に基づく今後の統計に……以下のとおり取りまとめるということですね。評価を行ったことと、その結果に基づいた国際比較可能性の向上について書いてありますという文面になっているので、以下が評価と今後の話、両方とも入っているのに、その結果に基づき、以下のとおりというところがおかしいという話ですね。

○土屋専門委員　そうです。

○菅分科会長　「令和４年度の状態について、以下のとおり」。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　そうですね。「令和４年度の状態について、以下のとおり評価及びその結果に基づいた考え方を取りまとめる」でいいのですかね。

○菅分科会長　そうですね。ですから、少し書き過ぎている感じがあって。ということは、「我が国から国際機関へのデータ提供に関し、令和４年度の状態について、評価を取りまとめる」。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　「評価及びこれに基づく今後の国際比較可能性の向上に向けた考え方を以下のとおり取りまとめる」。だから、評価と考え方を以下のとおりまとめるというようになっていけば、構成としては大丈夫そうですね。

○菅分科会長　いかがでしょうか、今の修文の考え方で。

○土屋専門委員　そうですね。よいと思います。ありがとうございます。

○菅分科会長　では、その方向で修文をお願いいたします。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　承知しました。

○菅分科会長　確かにそれはそのとおりですね。

○原専門委員　方向性に関しては異論ないですが、2つコメントと質問も兼ねてということなのですが、1つ、山本委員とかぶるのですが、2番の（3）ですね。統計人材の育成ですが、やっぱり統計人材の育成ではなくて、国際的に通用する統計人材の育成だと思ったので、そのことは明記した方がいいかと思いました。

この文章、その下にある3行、具体的なものがあまり見えなかったので、さきほどあまり具体的に書かずというお話だったのですが、育成の方法とか、必要なスキルとか、少し具体的に書いた方がいいのではと思います。

例えば、さっきお話にありましたように、スキルのところでは、やはり語学力とか、人脈をつくるとか、国際基準の理解とか、データ分析のスキルとか、そのようなスキルの養成をすると。あと、育成の方法も、国際派遣や、大学教育と連携してといったような記述があると、何をイメージしているのかが分かりやすくなっていいのではないかと思います。ですので、それが1つ目のコメントになります。

2つ目のコメントは、質問も兼ねているのですが、国際貢献にフォーカスされた報告書だと理解はしたのですが、例えば、私もあまり自分と関係ないようなプロジェクトに参加することでいろいろ知見が得られることが多いです。

ですので、国際貢献して、それを通じていろいろな知見を得て、それを国内統計の改善とか、国内に生かすことができるのであれば生かしていくといったような、何かそんな視点があってもいいのかなと思いました。一応、そのような視点もあってもいいかと思ったというところで、コメントになります。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長　確かにそうですね。御指摘のとおり、どんなスキルがという列举であるとか、育成の方法などもあるとよいかと思ったところもありますが、今回、前回までの議論の内容をまとめたというところで、これまでの議論でそこまでのスキル等の列举のような話がなかったので、今、書けるところとしてはここまでというところで書いているところではあります。今後更にもしそうした話とかをやっていくべきということであれば、また今後の議論ということなのかなと思っております。一旦、このペーパーとしては、前回までの議論ということでここまでかと承知をしているところです。

○菅分科会長　原委員、この分野、こういう国際的な分野に手を挙げる人がそもそもいないのですね。そういう感じの分野と考えて、物すごくドメスティックなところなのですね。ですから、そういう人を1人でも多く発掘して養成しようということなのだろうと思うのですね。そもそも非常に内向きの世界なので、おっしゃるとおり、スキルとかデータ分析とか、そういうところまで手を伸ばして養成しなきゃいけないというのはそのとおりなのですが、そもそもそういうのに手を挙げてやりたいという人がなかなか出てこない分野でもあるので、そういうところの少しでも後押しをして、そういう人たちが出てきたらいい

う、そのくらいだと思いますね。

非常にドメスティックと言っては悪いけれども、どちらかという、理系というか、そういう世界なので、そういうことなのだろうと。おっしゃるとおり、できればハイスペックというか、スキルの高い人を養成してということなのだろうと思うのですね。あまり書き込めしまうと、そこまでとても対応できないのでということもあるのではないかなと思うのですね。要求水準が高過ぎてしまって、おそらくとてもではないが無理という感じになってしまうという感じだと思います。

いかがでしょうか。おっしゃることはすごくよく分かって、できればもっとそういう人たちが出てきてほしいなと思うのだけれどもという感じですね。

○原専門委員 積極的に育成していこうというよりは、何か後押しができたらいという程度なのでしょうか。

○菅分科会長 そもそも手を上げる人がいない世界なので。

○原専門委員 国際貢献のための方向性を示すのであれば、やはり国際的に通用する人材の育成を目指すということだと思うので、(3)のタイトルの中にはそれが入ってもいいとは思いました。具体的に書き込みはできないということですが、このままだと、何かこの文章、あまり前向きではないのだなということを感じ取ってしまったので、もし具体的なものが入っていったらいいのではと思います。

○山本臨時委員 今回のお取りまとめ、提言は、国際機関へのデータ提供を通じて行う国際貢献についてであって、国際貢献の手段としては多少限定された形での提言になっていると理解をいたしております。その意味では、例えば、英語でメールが来たら読まないとかではなくて、関係するドキュメントは自分で調べて、こういうことなのだなと理解するべきというような、そのあたりかなと思ひまして、素養という文言の追加を提案させていただきました。

ただし、今、原委員おっしゃいましたように、(3)のところだけが統計人材という項目名で、「国際社会からのニーズに」と出だしはあるのですが、項目名のところにも「国際」という言葉が入っていてもいいのではないかなということは私も同意見でございますので、併せて御検討いただければと思います。

○菅分科会長 そうすると、「国際社会への適切な」とか、少し前向きな文言を。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 そうですね、(3)の見出しに「国際」という単語が入ればよいということですね。

○山本臨時委員 原先生と同じ意見で、入っていればというよりは、入っていた方がよいということだと思います。

○原専門委員 私も、そこは「国際的に通用する」といった文言ぐらいは入れていただいてもいいのではないかなと思っております。重ねて申し上げました。

○菅分科会長 いかがでしょうか。「国際的に通用する」という。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 「通用する」という単語がいいのかどうかはありますけれども、国際色が入るような見出しに修正をするように検討します。

○菅分科会長 おっしゃりたいことはすごくよく分かりつつも、なかなか養成ができていないというか、本当、なかなか難しいという感じなのですね。すごく苦勞しているというところがありまして。「国際的に通用する」に近い表現で修文していただけますか。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 承知いたしました。

○菅分科会長 原委員、その辺りでいかがでしょうか。まだ難しいところでありまして、ほとんど本当にこういう国際的なところは弱いのですね、すごく。なかなかそちらの方向に行ってくれる人がそれほどいるわけではないということなのですね。

○原専門委員 弱いのだろうなとは思いますが、そちらの方向にかじを、委員長が後押ししたいとおっしゃっていましたが、かじを切っていけないと、いつまでも今の状態が続くのだろうなと思うと、せめて後押しするような文言があった方がいいなと思うので、(3)のところには、もし今御提案があったような形で事務局に御検討いただけたらありがたいと思います。

○菅分科会長 ということで、加筆していただけたらと思います。

○元山専門委員 前回都合がつかず、参加できなかったのですが、前回、前々回と、膨大な資料をお取りまとめいただきまして、御提言いただき、ありがとうございました。

既に多くの先生がいろいろ御指摘されていますので、私から追加のことはないので、神林委員もおっしゃられた、2のさらなる国際貢献のに向けた取組の方向性について、「各府省が」ということだけは明記しておいていただければと思います。この文章を最初に拝見したときに、(1)(2)(3)を見て、これらを実施するために、今後、特別の機関を設けるのかどうかというふうな疑問を持ちましたので、是非「各府省が」という文言を2のところに加えていただければと思います。

以上となります。ありがとうございました。

○菅分科会長 どうもありがとうございます。これもやはり主語をもう少し明確にした方がよいということだと思います。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 「各府省が」のところは、記載を検討します。

富田委員なのですが、今私宛てにメールをいただきまして、言いかけた内容について、文言をいただいておりますので、御紹介いたします。

言いたかったのは、1点、表の3番目に記載されている、教育、Educational attendanceの指標がなぜ提供できないでいるかということです。国勢調査から容易に得られるデータであると思いますが、御検討くださいということでございました。

○菅分科会長 ③ですか。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 そうですね。5ページ目の③ですね。

○菅分科会長 ③のデータが提供できていない。提供できていないというのはどこで分かるのかな。裏のこれの③ですね。日本、ドイツ、トルコ、日本、フランス、アメリカと書いてあって、これはいかがでしょうか。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 これについては、別紙のところでヒアリングの概要、(1)番のところ、ポツの2番目、学歴別人口データ、これに相当するものだと承知して

おりまして、こちらについては、ここにも書いてあるとおり、「国際標準教育分類と国勢調査の調査項目「教育」の学校区分との対応を整理し、提供可能な範囲を確認中」ということで、富田先生の要望にも沿う形で、何かしらこの区分の中で、国勢調査の区分と合致するものについては、データ提供が一部でもできるのではないかと検討しているという状況ですので、これはまさに検討中であるという回答になるかと思います。

○菅分科会長 これは総務省がやっている。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 そうですね。総務省統計局で検討中でございます。

○菅分科会長 ということで、提供できていないのだけれども、検討が進められているのというのが御回答ということですね。

○赤谷総務省統計委員会担当室次長 そうですね。分類の合うところ合わないところが恐らく両方あるというふうに想定されまして、その確認が今、100%はできていないということかと思います。

○菅分科会長 分かりました。ということで、これは提供が恐らく近い将来できるであろうというふうに解釈させていただきたいと思います。

以上、諸先生方から御意見、御質問をいただいたところなのですが、何か言い足りないことがございますか。何か言っておきたいということはありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

大変適切なコメントをたくさんいただきまして、ありがとうございます。修文するところはたくさんありますが、事務局、よろしくお願いいたします。

こうした国際機関等へのデータ提供を通じたさらなる国際貢献に向けた対応については、一応、現状を踏まえ、評価分科会の意見として、この資料のとおり、ただ、多くの修文御意見をいただきましたので、修文の上、決定したいと思います。よろしいでしょうか。大筋、皆さん、御意見としては賛成ですということだったので、この文章の修文は進めていただきたいと思います。よろしいですね。

修文内容につきましては、私の方で事務局と相談して決めさせていただきたいと思いますので、御一任いただきたいと思います。これにつきまして、よろしいでしょうか。もちろん諸先生方にも一応、御回覧いただくというふうに理解しております。

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

皆様、大変活発な御意見をありがとうございました。

それでは、予定された議事が終了しましたので、本日の分科会はここまでとさせていただきます。

最後に、事務局から次回の日程について御連絡をお願いいたします。

○福田総務省統計委員会担当室長補佐 次回の日程は未定です。後日、日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○菅分科会長 以上をもちまして、本日の評価分科会を終了いたします。皆様には大変お忙しいところ、御審議に御協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、これにて終了させていただきます。